

脳神経科学リテラシーの知識論

植原 亮

日本学術振興会特別研究員PD（日本大学）

科学技術リテラシーの必要性が叫ばれて久しい。近年ではさらに脳神経科学が発展しつつあることを背景として、脳神経科学リテラシーの重要性が説かれるようになり始めている。しかし、脳神経科学リテラシーとは何か。単なるスローガン以上の内実をもつものとして脳神経科学リテラシーを捉えるならば、その本性についての理論的考察が不可欠となる。

脳神経科学リテラシー（あるいは一般に科学技術リテラシー）なるものの内実がいかなるものであるにせよ、それが知識・知的能力の一種ないしは集合体であることはまちがいない。したがって、脳神経科学リテラシーの本性に関して理論的に考察するには、知識の本性について何らかの了解をもつことが不可欠だということになる。本発表では、そのためのひとつのアプローチとして、脳神経科学リテラシーの内容とその含意を哲学的知識論の観点から明らかにすることを目指したい。ではそのためにはどのようにすればよいか。

脳神経科学リテラシーに含まれる内容にはふたつの焦点があると考えられる。第一に、近年の脳神経科学の知見に対応した人間観を身につけること、そして第二に、脳神経科学の発展が社会に対してもつ意義を理解することである。これらふたつの焦点を適切な概念連関のうちに位置づけつつ、それらが知識論の観点から見ていかなる内実を有しているかを明確化することを目指さなければならないだろう。

そのうえで、脳神経科学リテラシーという知のあり方についての総合的な特徴づけを行い、そこから引き出すことのできる知識論的含意がどのようなものであるかをさらに探り出すことにしたい。そうした含意として具体的には、脳神経科学リテラシーには「知識についての知識（メタ知識）」が含まれており、それを身につけたものは科学をめぐる現況に能動的に関与することが可能になる、といった点を論じる。